

## 平成23年度 鳥取中央育英高等学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

鳥取中央育英高校は1906年から続く長い歴史をもち、「克己」を校訓として継承しながら今日の姿がある。「克己」に基づく5つの学校ビジョン、即ち①高い志と自ら学ぶ力、②確かな学力と公共の精神、③自らを律する力と他を思いやる心、④率先して行う勇気と協力して成し遂げる智恵、⑤健やかな体と感動する心、を目標にして教育が行われている。このビジョンは、毛筆による大きな書として学校の中心となる廊下に掲げられており、目標を見失わないようにする学校の姿勢が分かる。

学習と部活動とを両輪として、健全な人間育成を行いたいという学校の志は、良い形となって具現化されており、学校は良い状態にあると言ってよい。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 部活動は100%に近い加入率を維持し、良い伝統の下で、水球、陸上、野球を初めとする全国レベルの部活動を中心に、互いに刺激し合いながら積極的に活動をしている。また、週に1日は休養日を設けるなど、生徒の健康面への配慮も適切である。
- ② 進路指導に特化した約50頁から成る冊子「サクセスタイム」を学年毎に作成し、全員に配布している。進学志望にも就職志望にも対応できる内容できめ細かく、完成度が高く、生徒にとって有用である。本冊子は、「10年後の私」を考えて記述させたり、「私のサクセスマップ」を用いて卒業後の目標を具体的に考えさせたりといった工夫が施され、自身の将来をしっかりと見つめさせるように構成されていて、自己実現のための導き書としての役割を果たしている。
- ③ 大栄中学校並びに大栄小学校と連携した「レインボープラン」により、部活動や授業、体験活動での協力・協働を行っており、地域の教育にとって優れた企画・実践と言える。
- ④ 学校内の情報の発信が非常に優れている。例えば、新聞部が発行する新聞は質量共に優れ、全国トップレベルを維持している。また、ホームページは、管理者のチェックを受けながら毎日のように更新され、かつ極めて高いアクセス数を得ている。
- ⑤ 環境配慮活動については、TEASⅡ種取得4年目という実績がある。生徒の中には、ゴミの減量化と電気等の省エネの考え方が十分根付いていて、学校の継続的努力が評価できる。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 就職に関する進路指導が担当教員任せになっている点が否めない。就職希望者の増加にも対応できるよう、キャリアアドバイザーの配置等を検討する必要がある。
- ② 図書館は使い易く機能的に整備されているが、貸出し数が多いとは言えない。教科と連携するなどして、生徒が書籍に触れる機会を増やす取り組みが必要である。
- ③ 学校安全計画を早急に整備し、帰宅困難などへの対応も明記されたい。また、学校保健については、学校が一体となった組織的取り組みを望む。
- ④ 地域アンケートが未実施の状態である。学校が「地域の中央育英」としてより一層活性化するために、地域の声を聴くことを期待するし、その手段としてのアンケートの実施を要望する。